

平成 25 年度 (2013 年度) 「地質調査技士登録更新講習会」報告

技術委員会 太田 史朗

平成 25 年度の東北地区の地質調査技士登録更新講習会は、平成 25 年 11 月 22 日（金）に「仙台国際センター」で開催されました。

登録更新は、平成 25 年度から①登録講習会により更新する方法と、② CPD の取得による更新の何れかを選択する方法となりましたが、東北地区では、CPD による更新者 2 名に対して、講習受講者 285 名と会場がほぼ満席となる例年にも増して盛況な講習会となりました。

講習は、テキストの内容に併せて第 I 編から第 IV 編の 4 つの講義が実施されました。第 I 編の「地質調査業について」では、はじめに 2012 年度の地質調査業務の総額事業量がピーク時（1995 年）の約 4 割に減少している厳しい現況が報告され、更には、「地質調査業務に関する入札・契約制度等」、「標準契約約款の制定」、「独占禁止法の運用強化」、「公共工事品確法の成立・施行」など、業界を取り巻く環境が年々変化していることが再認識されました。また、昨今の災害多発やインフラ老朽化への対応にあたり、今後、「ジオ・アドバイザーとしての地質調査技術者」「安全で安心な社会づくりに地域に密着した基幹産業としての地質調査業」が益々重要となることも再認識されました。

第 II 編の「地質調査技術者について」では、地質調査技術者の資格制度・教育訓練システム・技術者倫理など、地質調査技術者としての「あるべき姿」「自己研鑽の必要性」を再認識しました。また、今回から採用された「CPD を活用した更新制度」についても改めて紹介がありました。

第 III 編の「調査ボーリングの基本技術と安全管理・現場管理のレビュー」では、

ボーリング調査に関する基本技術（仮設、掘進技術、孔内試験等）・安全及び現場管理の目的・方法・留意点の再確認に加え、2013 年に改訂された標準貫入試験や孔内水平載荷試験の学会基準変更点の説明もありました。

第 IV 編の「調査ボーリングの周辺技術動向」では、「調査ボーリングの記録と報告」「目的に応じたボーリング及びサンプリング方法」「ボーリングを伴わない主なサウンディング」「土壌汚染調査」「地質調査における物理探査と室内土質試験の役割」の内容で講義がなされ、地質調査技士に必須の周辺技術について説明がありました。

なお、本講習に用いた平成 25・26 年度用テキストは、最新の技術動向が反映されていることは勿論のこと、関連技術・施策・留意点がコラムとして記載された大変判りやすい資料となっていました。平成 26 年度の講習会も地質調査技士としての技術研鑽、技術伝承の場として、皆様にご利用頂けるよう、改めましてお願い申し上げます。

最後に、丸 1 日という長時間にわたる講習会が、多忙のなか受講者の皆様のご協力のおかげで無事に終えることができましたことに対し技術委員・事務局一同心より感謝申し上げます。



登録更新講習会の受講状況